

地域で産み育て、再生するスポーツ文化



スポーツビジネス

山形県スポーツ振興21世紀協会

佐藤 嘉高

一九九三年、我が国にJリーグという新しいスポーツビジネスが誕生した。従来のプロスポーツが企業密着型であったのに対して、地域との一体性をアピールするJリーグは、地域活性化の起爆剤として話題を呼び、さまざまな地域がチーム誘致に奔走した。それから数年が過ぎ、経営難からいくつかのチームが消滅しその危機に直面するものが存在するに至った。果たして、スポーツビジネスとしてのサッカーに未来はあるのだろうか、チームは地域に何をもたらすのだろうか。こんな疑問が大きく渦巻くなか、当協会は活動を開始した。

当協会は、既存有名チームの誘致といった安易な方法ではなく、地域に生まれたチームを地域の方で育て、地域に利益をもたらすナショナルブランドにしていこうとする発想から、NEC山形サッカー同好会という鶴岡市に生まれた芽を引き継ぎ、これをモンテディオ山形として地域ぐるみで育てていくことを選択した。そして、地域全体の利益を目指す

という考えからこれを支える運営形態も會員制の公益法人（社団法人）としており、これは全国初のケースといえる。現在、モンテディオ山形に加え、この四月から女子駅伝チームを運営している。今後さまざまなスポーツチーム運営を模索していくが、その基本は、体力にに応じて地域とともに歩く姿勢を貫くこととしている。公益を目指す協会が運営するチームは、大きく次の三つの役割を担うことを活動の柱にかかげている。

Jリーグは今年から二部制となり、モンテディオ山形はJ2部に属している。Jリーグの枠組みに入ったことにより、メディア露出は飛躍的に高まった。一部推計を含む当協会の試算では、新聞で約七百回（うち写真含むもの約三百回）、県内及び全国紙はもとよりJチームがある北海道、東北、関東・甲信、九州の地方紙に記事掲載されている。また、TVでは、ニュース報道を中心に約八百回露出している。午後十時台の全国ネットニュース番組で当チームが特集されたことがあるが、

広告換算価格で約一億五千万円との試算もある。このほか、サッカー雑誌、ラジオ、Jリーグのオフィシャルブック、インターネットなど多数の媒体で紹介されている。サッカーの話題が年々高まっていくことが予想される中で、「山形県」を冠するモンテディオ山形の活躍とともに本県の名は全国に露出する。

昨年のサッカーワールドカップ仏大会では、日本代表戦（対アルゼンチン）のTV中継がスポーツ番組の最高視聴率を更新した（六七％）。価値観の多様化が進む現代にあつて、スポーツは年代や性別、地域といったさまざまな垣根を越えて、多くの人々が日本チームを応援した意味は大きく、スポーツが垣根を越えて人々の心をひとつにできる貴重な素材だということを再認識させた。ある意味でチームとは郷土愛を体現した存在と言えるし、それが外に向かって自慢できるものであれば、地域の連帯感や郷土への愛着は一層たかまっっていく。モンテディオ山形はこのよ

うな地域連帯の核となり、地域の魅力を高め

Value Sight スポーツビジネス

地域で産み、育て、再生産するスポーツ文化



る素材であることを目指している。

欧米では、地域を代表する異種スポーツのチームを会員制など住民主体の手法で運営している例が多い。ここでは、チームそのものが地域の個性の象徴であり、住民はこれにかかわることで、地域の一員としての誇りを持つという。当協会は、このような、いわゆる、総合スポーツクラブを目指す我が国で希少な団体としてとらえられているが、従来、特定

企業でしか支えられなかったプロスポーツチームを、地域で支えることができるのだろうかという注目も大きい。地域の幅広い理解と賛同を得ることは容易なことではないが、この方法が成功したとき、山形県は我が国における新たなスポーツ文化のエポックメーカーとなることができる。

サッカーに対する興味は今後ますます高まっていくと予想されている。最も大きい要因として二〇二〇年ワールドカップの日韓共同開催があげられる。昨年のフランス大会でチケットが手に入らず空港で足止めをされた事件でW杯の世界的な関心の高さを認識した方も多いと思うが、相当規模のイベントであることは間違いない。これに関連して外国チームのベースキャンプ地に全国各地が名乗りをあげており、本県からは天童市と酒田市が立候補している。キャンプ地となった場合の経済効果を約百億円と試算するシンクタンクもある。また、この前年の二〇一一年には、「スポーツ振興くじ」（通称サッカーくじ）が発売される。これは、当チームを含むリーグの十数試合分の結果を予想するもので、直近のアンケート調査では対象者の約八割が購入するとしており関心が高い。一枚百円のくじの予想払戻最高金額は一億円と高額であり、従来とはまた違ったサッカーファン層が増えそうである。こうした従来にないファン層の拡大策で、少なくとも今後三年間はプロサッカーに対する関心は高まる一方と予想されており、サッカーチームは今後もさまざまな形で興味の対象とみなされるだろう。

このような中であって、特にモンテディオ山形は投資対象として大きな可能性と魅力を

持った存在と自負している。なぜなら、このチームは公益的チームとして差別化され、そのより所を「地域」という盤石な基盤に求めているからだ。これは、変動の激しい日本経済にあつて数少ない「確実」であり、活動の結果としてもたらされる利益は、これを支えた地域全体に還元され再生産されることを意味する。地域で育て地域で産んだ利益を地域で再生産させる仕組みこそ山形県の発展にとって有益なものと思う。

当協会は、会員、サポーター、運営ボランティア、行政、企業など山形県を拠点とする方々からのさまざまな支援によつて存在している。このような賛同と参加こそが協会に対する投資にほかならず、これを発展のエネルギーとしてチームは地域の財産にまで昇華していく。投資なきところに発展はなく新たな未来は生まれない。多くの方々の参加をお待ちしています。

佐藤 嘉高

(社)山形県スポ - ツ振興21世紀協会事務局長

昭和54年山形県入庁。平成6年度農政課、平成8年度企画調整課を経て平成10年度からスポーツ課付けて同協会へ出向、現職。

(社)山形県スポーツ振興21世紀協会は、山形県に拠点を置く全国区のチーム運営を目指し平成8年2月に運営開始。活動の趣旨に賛同する会員やボランティアが物心両面で協会の運営を支えている。現在会員数3,379口。

問合せ先：山形市松山2-11-30 スポーツ会館3F
TEL 023-635-9290